



人・夢・技術グループ株式会社

2023年9月期 決算説明会

2023年12月4日

イベント概要

[企業名]	人・夢・技術グループ株式会社		
[企業 ID]	9248		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2023 年 9 月期 決算説明会		
[決算期]	2023 年度 通期		
[日程]	2023 年 12 月 4 日(月)		
[ページ数]	47		
[時間]	17:00 - 18:11 (合計 : 71 分、登壇 : 55 分、質疑応答 : 16 分)		
[開催場所]	104-0054 東京都中央区勝どき一丁目 13 番 1 号イヌビル・カチドキ 16 階 インターネット配信		
[会場面積]	132 m ²		
[出席人数]	35 名		
[登壇者]	3 名		
	代表取締役社長	永治 泰司 (以下、永治)	
	専務取締役	井戸 昭典 (以下、井戸)	
	常務取締役	塩釜 浩之 (以下、塩釜)	

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



登壇

司会：皆様、大変お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただ今より人・夢・技術グループ株式会社、2023年9月期決算説明会を開催いたします。本日はご多忙の中ご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日の会社側出席者をご紹介します。皆様より向かって左側より、代表取締役社長、永治泰司でございます。続きまして、専務取締役、井戸昭典でございます。続きまして、常務取締役、塩釜浩之でございます。

本日の進行でございますが、はじめに社長の永治から、そして塩釜、井戸からのご説明の後に質疑応答とさせていただきます。質疑応答につきましては、会場でご参加の方は挙手をしていただき、司会者より指名させていただきます。Zoomでご参加の方はコントロールパネルのQ&A機能より、テキスト形式にてご入力ください。頂戴したご質問を読み上げ、ご回答させていただきます。お時間の関係上、全てのご質問にお答えできない場合もございますこと、あらかじめご了承ください。

本日の説明会資料につきまして、会場でご参加の方にはお手元に説明会資料、決算短信などのほか、アンケート用紙をお配りしております。Zoomでご参加の方は画面共有する資料のほか、当社ホームページの決算説明会ページに掲載した資料をご覧くださいこともできます。また、ウェビナー終了後はアンケート画面に移ります。アンケートは今後のIR活動の参考とさせていただきますので、ぜひともご協力のほどよろしくお願いいたします。Zoomでご参加の方におかれましては、チャット機能は使えませんので、何かお困りごとがございましたらQ&A機能にてお知らせください。本日の説明会の終了予定時刻は、18時となっております。

それでは、説明に移らせていただきます。永治社長、よろしくお願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



目次

1. 人・夢・技術グループについて
2. 2023年9月期決算ハイライト
3. 人・夢・技術グループ中期経営計画「持続成長プラン2025」の進捗
4. 2024年9月期業績予想
5. 2023年9月期下半期事業トピックス



サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com



当社グループを取り巻く経営環境と当社グループが目指す姿

経営環境
公共投資が限定されつつも 高度化・多機能化・長寿命化 など複雑化するインフラ整備が増大
ハード・ソフトのインフラサービスに おける民間企業の役割が拡大
IT技術の活用やDXなど 技術革新のニーズがスピード化



**NEXT50 持続可能な
グローバル社会の創造へ**
地球環境と調和した持続可能な経済成長と
社会の安全・安心で豊かな暮らしの基盤を創造



人・夢・技術グループは
公共事業の枠に囚われない
ものづくりサービスを提供する新たなコンサルへ

4

永治：皆様、こんばんは。お忙しいときにお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。人・夢・技術グループ、第2期がこの9月末で終わり、今、第3期に入っております。私からは、2期を振り返りながら、人・夢・技術グループについて簡単にご説明させていただきます。

まず、コロナや、その後の円安によると考えられる資材の高騰等ありまして、いろいろな変化が起きております。その中でも、私どもはもともと公共事業を中心に行ってきておりますけれども、2018年に中長期計画をつくったときに、公共事業一辺倒からは脱却しなきゃいけないということで進めております。

経営環境のところに書いてございますけれども、公共投資の、国の予算はここ数年、大体7兆円程度で横ばいです。若干補正予算等で変化はありますけれども、当初予算でいうと6兆円、補正予算等を含めまして7兆円というかたちが続いています。ということは、人件費や、物価が上がっていることを考えますと、量的には減少傾向ということになるかと思えます。

そんな中で先ほど申しましたように、いろいろな事業を行っていかないといけないということで、業務の省力化にもつながります事業の高度化要求される多機能なもの、それから主に土木・建築分野になりますけれども、新たにつくるというよりも、長寿命化が重要となるインフラ整備、そういった要望が増えている環境になります。

さらに、「インフラサービスにおける民間企業の役割が拡大」と書いておりますが、先ほど申しましたようにやはり限られた予算の中で、自然災害の激甚化が実際に起きておりまして、ご承知のようにいろいろなテレビ報道等でも、本当

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



4

に毎日のようにどこで災害が起きたということが、報道されています。大雨だったり、今年でいうとずっと暑くて、ある日突然雪が降り始めたという状況になっています。

そういったことに対して、公共サービスとしての予算だけでは対応できない部分が結構増えてきていることで、ハード・ソフトのインフラサービスにおける、われわれの役割をもっと拡大していかないといけないと思っています。

さらに技術革新のニーズのスピード化。これも皆様ご承知のように IT 化がどんどん激しいスピードで進んでいますので、われわれもそれに乗っかっていかなければいけません。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



経営理念 (PURPOSE)

人が夢を持って暮らせる社会の創造に技術で貢献する。

高い技術とグループ総合力で幅広いインフラサービスをカバー、新規事業へ挑戦



ということで、この人・夢・技術グループを創立したときの経営理念として、「人が夢を持って暮らせる社会の創造に技術で貢献する。」というものがあります。これはやはり、本当に人々が安全・安心に暮らせる。災害が起きても、少なくとも人命は守られる。また、高齢化社会の中で、交通弱者となって孤独死するようなことがないように、自由に移動ができる。そういったことがインフラビジネスをやる者としての使命だと思っており、そういうところに技術で貢献していこうというのが、経営理念でございます。

そのためには、実際の人々がリアルに生活している場所は、災害に対して安全であること、安心できる環境で生活できること、移動の支援、つまり高齢者でも自由に移動ができるような環境をつくっていく。そういったことも、われわれの使命だと思っています。

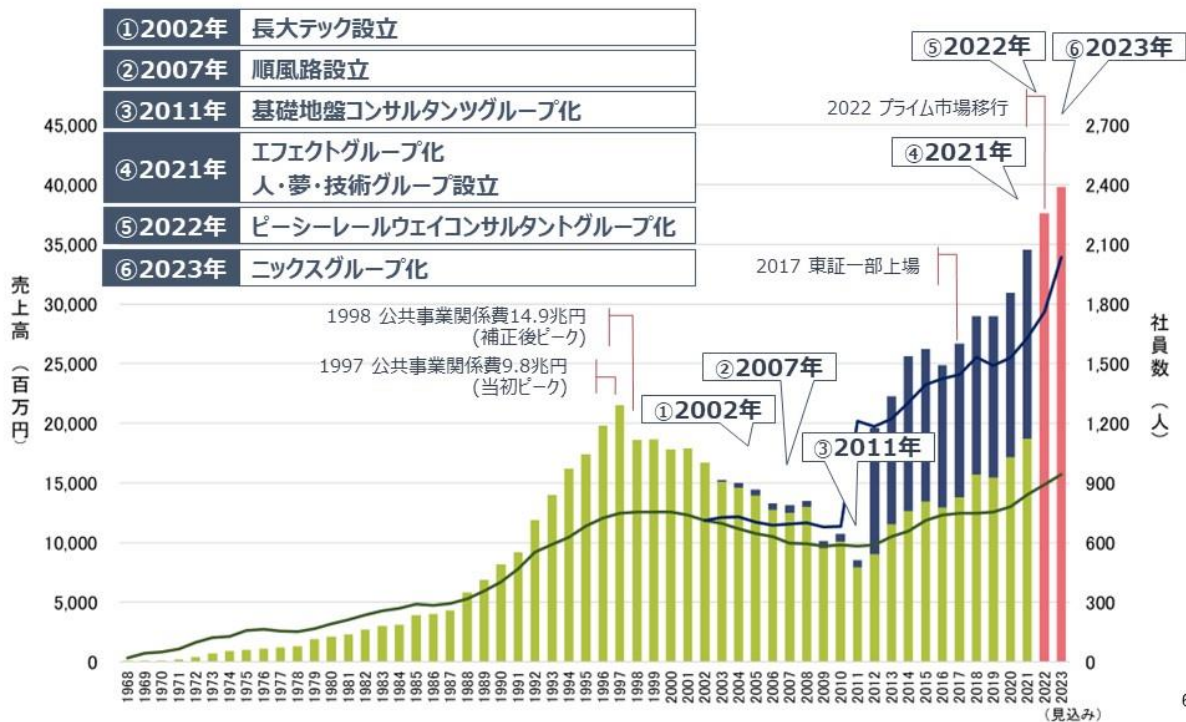
それから少子高齢化に伴いまして、地方の衰退がどんどん顕著になってきています。このままでは、例えば食料自給をとっても、田舎に人が誰もいないようでは農作物をつくれないうことにもなりますし、魚をとりにいく人もいない状況になってしまいますので、われわれが支えるべきは、そういった地方を元気にすることだと思っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

人・夢・技術グループの売上高・従業員数推移と沿革

人が夢を持って暮らせる社会の創造に向けて順調に仲間がグループに参画



もともと人・夢・技術グループは3年前までは株式会社長大が事業をしながら、持株会社の機能も果たしておりましたが、いろいろな企業に加わっていただかないと、そういった人々の生活を支える部分においても困難だと見えてきました。

そこで人・夢・技術グループを持株会社として、事業会社にいろいろな分野の方々、例えば長大でいえば構造物に強い会社、あるいは環境調査や交通に強い会社。基礎地盤コンサルタンツでいえば地盤。長大の事業が地上であればここが地下の世界ということで、一体で行えば地球上の構造物の調査や検討、設計ができることとなります。

さらに長大テックでは、点検、あるいはそういったものをデータベース化しますので、必要なときに一体となって動けます。長大、基礎地盤、長大テックが一体となって、今ある構造物に対応できます。さらにこれらを効率的、かつ今の時代に合ったサービスを提供していくということで、ITに強いエフェクト、ニックスという会社も仲間に加わっていただきました。こうして、いろいろな会社さんに仲間に入っていただき、グループ全体として、経営理念に向かって事業を進めているということでございます。

今の長期計画を「2030」と呼んでいますけれども、2030年に始まる期を今の長期計画の最終年度としており、そこに向かって、こういったかたちで先ほど示しましたようなグループ会社が増大してきており、いろいろな分野で進めていることとなります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

そのときに2030年の目標として既に開示しておりますが、売上が600億円、従業員が2,600人という目標に向かって、人・夢・技術グループの第2期末では、概ね400億円、従業員が2,000名強程度になりました。概ね順調に、数量的には進んでいると思います。

人・夢・技術グループの新たな企業 「株式会社 ニックス」2023年7月31日グループ化



東京都渋谷区に本社を置き、時代に合った最適なITソリューションを提供

企業のDX推進向けのシステム設計・開発に注力し、IT・DX活用の戦略策定の立案から開発・導入・サポートまで、一連のサービスをワンストップで提供し、インフラサービスの高度化に貢献します。

◆会社概要

商号	(株) ニックス
本社	東京都渋谷区恵比寿1-19-23東邦ビル2階
代表者	代表取締役社長 松本 成敦
資本金	1億円
創立	1982年3月30日
社員数	49名 (2023年9月30日現在)



◆経営成績

(単位：百万円)	21/3期	22/3期	23/3期
売上高	605	633	716
純資産	204	211	242



7

次の資料として挙げていますのはニックスについてです。前期の9月から仲間に加わっていただいたので、一つのトピックスとしてご紹介いたします。これからは、事業はいろいろなソフトをベースに動かすようになって考えていますが、それをゼロからつくるのはかなりの投資が必要です。投資には金額だけでなく人件費もかかってきます。

それとスピードも考えないといけない。その観点から言いますと、このニックスという会社は既存の市販のいろんなソフトをわれわれのグループに合うようにインターフェースをうまく組み上げていく技術を持った会社です。われわれの技術をIT、あるいはAIの世界に乗せて効率良く進めていこうと考えているところです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



人・夢・技術グループの事業分野

I 国土基盤整備・保全



主な顧客

国土交通省、地方自治体、JICA、海外政府機関

- 橋梁・道路・港湾河川・鉄道等、社会インフラ計画・調査設計・施工管理
- 社会インフラ長寿命化、維持管理コンサルティング
- インフラ空間情報事業
- AIやインフラのDX化

II 環境・新エネルギー



主な顧客

一次官庁、地方自治体

- 再生化エネルギー調査・計画設計・施工・管理・運用
- 洋上風力発電の海底地盤調査

III 地域創生



主な顧客

地方自治体

- 地域、都市開発調査
- まちづくり、都市システム化計画
- 公共施設の運営
- デマンド交通システム
- 環境経営の支援
- 生物多様性の保護支援

IV 海外連携・新領域



主な顧客

一次官庁、地方自治体、JICA、海外政府機関

- 橋梁、道路、鉄道など社会インフラの計画・調査・設計
- 水力発電所の導入
- インフラ設備の運営

これは先ほどの繰り返しになりますが、大きくいうと国土基盤、これは従来からやっているまちづくりそのものの中の、交通、道路だとか、あるいは橋梁だとか、病院や学校の建設、建築といったものの分野です。

それから環境・新エネルギー分野ということで、環境調査、主には事業に伴う環境ということになります。つまり何かをつくるとしたら環境がどう変わっていくのか、環境を予測するような分野です。

それから地域創生は先ほど言いましたまちづくり。これは今、背景にあるのは比較的都会のほうですけども、地方の小さな都市も含めて、やっていこうということです。

それから海外連携・新領域ということで、次なる開発を行いながら、次の展開、成長に向けて、今のうちから投資をしてということです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

人・夢・技術グループの新規事業

空飛ぶクルマ



- ITS/交通分野・建築分野・環境分野など、これまでの建設コンサルタントとしての技術やノウハウを生かし、離発着場の設計や運行ルールづくりなどに取り組む
- 2025年大阪・関西万博に向け、関西地区での実証実験や自治体との連携協定を結ぶ

量子コンピュータ



Q-STAR 参加状況詳細



- 量子技術を活用した未来の新しいまちづくり「クオンタムシティ構想」を推進。量子コンピュータの解析能力を活用し、エネルギーの効率的な使用や交通の最適化を目指す
- 2023年4月28日、量子ベンチャーであるblueqat株式会社と業務提携契約を締結

デジタル田園都市



- 更別村が進める“更別村「SUPER VILLAGE」構想”を建設コンサルタントの経験を生かして支援
- 2022年度国のデジタル田園都市構想推進交付金のType3に採択、2022年10月24日、デジタル技術を活用した住民サービス「ひやくワクサービス」開始

水上都市



- 沿岸部に住む人の安全安心な生活を目指し、浮体構造を活用した新たなまちづくり「水上都市」の実現に取り組む
- 2023年8月、浮体技術と気候変動に関する国際会議「WCFS2023 Japan」を主催
- 浮体式洋上風力発電に関する特許を取得し、新たな再生可能エネルギーにも取り組む

例えば今、新規事業として取り組んでいるものが、一つは空飛ぶクルマです。これは大阪万博に向けてのデモンストレーションの絵ですけれども、取り組んだ理由は先ほど言いましたように、地方での足の確保が主たる目的です。

例えば山間部の集落に車で行こうとすると、迂回、迂回でものすごく時間がかかります。それを空飛ぶクルマで行けばすぐに移動できる。山を越えていけるということであると、緊急時の救急車の代わりとして医療分野で使える。

それから昨今問題になっていますが、国内で鉄道分野がどんどん縮小しています。新幹線等の代行輸送については充実してきていますけれども、逆にローカルの鉄道がなくなってくるような状況になる。それを代替するのが、こういった交通手段だと認識しております。

そのためこういうものに取り組んでいます。これは今後、われわれの見立てとしては一般の乗り物として使えるだろう。これは当然のことながら無人運転になりますから、昨今問題になっている高齢者の運転リスクは当然ないわけで、そういったものに取り組んでいます。

それから量子コンピューター。量子コンピューターというと全然われわれの分野とは違うようにお考えかもしれませんが、実はこれは空飛ぶクルマも含め、交通の最適化では非常に高速な処理が必要になります。今渋滞しているから、あるいはこの経路をとらないといけないときに、瞬時に計算できないと渋滞問題が起きます。渋滞問題は結局、環境問題にもつながり、そういったものに対応していくには、量子コンピューターのような極めて高速で処理できる、演算できるシステムが必要になります。そういったところで、これも取り組んでいるところです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

それからデジタル田園都市。こちらは先ほど申し上げたとおり、地方創生という視点です。それから水上都市・洋上風力発電。これも昨年特許を取りました。今、着床式といって、海底に直接風車の土台をくっつけるやり方です。それだと沿岸部の漁業、養殖をしているところを避けてということになりますと、設置できる場所は極めて限られますので、浮体式の洋上風力というかたちにすれば、大きなエリアでできることになります。

これもわれわれが取り組んでから、昨年ぐらいから政府としても洋上風力に力を入れることが発表されましたが、そういったものを先取りして事業を進めていくということです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



サステナビリティ経営の推進 - 気候変動対応・人的資本

持続可能な社会の創造のため、経営・事業の持続可能性の向上に向けて
サステナビリティ経営を推進

気候変動への取り組み



人的資本経営

- 「持続成長プラン2025」達成に向け、「人材戦略部」を設置し、人材育成を推進
- 過去2年間、**3%以上の賃上げ**を継続的に実施
- **DE&I**(ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン)の推進
- 会社の資本である社員の健康を維持・向上させることを目的とし、2023年6月、「**人・夢・技術グループ健康経営**」を宣言
- グループの全社員が心身ともにより元気な状態で長期にわたって活躍できることを支援するために「**健康支援センター**」を設置
- 日本政策投資銀行による「**DBJ 健康経営(ヘルスマネジメント)格付**」を取得



12

事業の方向ですが、さらに企業として考えていますのは、サステナビリティということになります。環境経営、企業の社会的責任が随分前からいわれていますが、その中の一つはこういった気候変動への取り組みだと思えます。

われわれは土木の世界でやっている、毎年の気候変動による災害に必ずぶち当たります。そういったものをなんとかしたいこともありまして、気候変動への取り組みを、長期経営ビジョンにも入れていますし、われわれ自身がカーボンニュートラルの世界を目指すのはもちろんのことですが、さらにカーボンニュートラルなエネルギーを供給していこうと考えており、風力や小水力といった取り組みを行っています。

それからもう一つ、これはわれわれの業界は、何か製品をつくっていると製造物をつくることは、ゼロではないですがほぼゼロに近いこと言え、人が動いて人が考えて、人が設計してというのが特徴です。そういうことで、人的資本経営は極めて重要な要素になります。

今期から人材戦略部を設置して、採用も含めて人材育成に取り組んでいます。また、過去2年間、3%以上の賃上げ。これは政府要請とも合致するものです。

それから働き方改革、ダイバーシティです。会社の社員の健康を重視する意味で、人・夢・技術グループの健康経営宣言を23年6月に出しております。それと同時に健康支援センターを新たに作り、ここには保健師、看護師

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



の資格を持った社員が常駐するかたちで運営しており、グループ全体の健康管理、メンタルもフィジカルも対応するかたちをとっています。

これは政策投資銀行様から、ヘルスマネジメントの「健康経営格付」もいただきました。

以上、極めて駆け足で簡単ではございますが、今の私どもの会社の置かれた状況と、取り組んでいる状況でございます。ありがとうございました。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptasia.com



2023年9月期 連結損益計算書サマリー

売上高は前年実績を上回る水準、営業利益は通期予想を上回り着地

(百万円)

	2022年9月期 通期実績	2023年9月期 通期実績	増減額	通期予想	達成率
受注高	39,265	38,920	△344	42,000	92.7%
売上高	37,604	39,812	2,208	41,500	95.9%
営業利益	3,397	2,860	△536	2,400	119.2%
経常利益	3,891	3,200	△690	2,450	130.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,333	1,203	△1,129	1,200	100.3%

■ 売上高について

- 主に、国土交通省、民間案件の発注の時期ずれにより通期予想を下回ったもの、前年実績を上回る水準となる。

■ 営業利益について

- これまで取り組んできたITインフラ整備による業務効率化の推進、コストコントロールにより、通期予想を上回る。

■ 経常利益について

- 営業利益の増加に加え、一過性利益323百万円(受取補償金、受取保険金、為替差益など)の計上により、通期予想を上回る。

■ 親会社株主に帰属する当期純利益について

- 特別損失として738百万円(減損損失731百万円、固定資産除売却損7百万円)を計上したものの、通期予想を上回る。



14

塩釜： 続きまして私、塩釜のほうから、決算ハイライトをご報告させていただきます。

まず、23年9月期の決算、損益計算書のサマリーということで、受注額が389.2億円でございます。これは前年に比べて約3億円減少いたしました。これは私たちの業界ではよくあることですが、受注の期ずれによるものでございます。その下が売上高、398.1億円で、これは前年に比べて+22億円となりました。

それからその下、営業利益が28.6億円です。これは前々期、約34億円でしたが、これに関しましては-5億円でございます。ただし私たちはこれを想定済みで、通期予想の24億円から見ると約5億円弱プラスになりました。この辺りは、また後ほど触れます。

あとはその下、経常利益。これは32億円。これは前々期より若干低くなりましたが、通期予想24.5億円に比べると130%、+約6億円強になります。

最終的に、親会社株主に帰属する当期純利益といたしましては12億円。これは前々期に比べまして11億円マイナスとなりましたが、通期予想とほぼ同じ12億円をキープしております。これに関しましては今回、減損をさせていただきますので、その影響があります。それもまた後ほど説明いたします。

大きくはこういうかたちで前期、着地いたしましたこととなります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



営業利益増減要因の分析

2023年9月期営業利益は、先行投資の推進により対前期比△15.8%となる

(百万円)

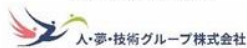


■営業利益増加要因

- ・基幹事業における売上高の増加、ITインフラ整備による業務効率化、コストコントロールによる原価率の改善により増加

■営業利益減少要因

- ・経済活動正常化に伴う活動経費増加、給与水準の引き上げ、新事業領域拡大に向けた先行投資、研究開発投資の推進などにより、減少



15

これは営業利益、増減要因ということでざっくりお示しさせていただきました。一番左が前々期の着地です。このピンクがプラス分です。売上の増加に伴って増加しております。また、原価率の変動は私たち非常に毎年毎年、効率化を進めている中で、その結果としてプラスになりました。

この部分が今回の中期計画の大きな目玉とであり、3年間でいろんなことに投資しながら、将来の成長につなげていこうというものです。これを前期は予定どおり進めさせてもらったことになります。

その結果 28.6 億円ということで、減益とはなりませんが、通期予想より+4.6 億円でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



(株)南部町バイオマスエナジーの減損損失計上について

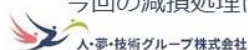
■減損損失計上の経緯

- 今回減損損失を計上した山梨県南部町における木質バイオマスガス化発電事業は、当社グループの総合的な地域創生事業（環境・新エネルギー分野、まちづくり分野、事業マネジメント分野）として、また、それらの研究開発の役割も持たせ自らが運営事業者（サービスプロバイダ）となり、運営を行っている。
- 2021年5月21日に竣工し運転を開始したものの、発電量について当初の想定を下回る水準で推移し、収益面では実現時期が当初の計画より遅れる見込となる。
- 但し、これまで様々な技術的改良を重ねて参った結果、一定の効果が発現し今後は安定稼働に向けたステージへ展開するものと判断。

⇒上記の理由、また今後の安定稼働に向け一定の目処が立つとの判断により、将来の安定稼働に向けた投資を十分に織り込むとともに、今後の事業計画を保守的に見直し、回収可能価額について慎重に検討した結果、減損損失731百万円を計上。

■今後の運営等について

- 今後の追加損失の発生について
本件に関わる追加損失発生(減損損失等)のリスクはない見込
- 今後の損益推移について
安定稼働の目処が立ちつつある状況に加え、事業計画の見直しによる運営コストの効率化、今回の減損処理による償却費減少などにより、改善する見込



16

もう1点、南部町バイオマスエナジー、バイオマス発電については、特別損失を上げさせていただきました。

これは特に事業がうまくいかなかったとかそういうことではなく、私たちはそもそもこの南部町のバイオマスエナジーを、一つのケーススタディ、ショーケースとして進めようとしています。単なる売電だけを目的とした事業ではなくて、バイオマス発電があるまちづくりという、私たちの得意なものとして進めています。

例えばこれは地方創生で今、日本はこれだけ森林があるのになかなか林業が活性化されていないとか、バイオマス発電をやることでその地域の木材の消費、林業の発展にもつながりますし、得られた予熱で例えば農業の支援に展開していくとか、そのようなことも含め、この事業にはただの発電だけではなくいろんな可能性があります。

バイオマス発電はガス化発電であり、非常にシビアな発電ですので、国内ではなかなかまだ実績がありません。でも、これは非常に地域を元気にしていく大きな装置になるだろうという考えの下に進めています。

事業を開始して2年経ちますけれども、なかなか技術的なところがクリアできなかったのですが、いろいろ研究開発等を行いまして、一つ大きな技術のハードルを乗り越えられそうだということが分かりましたので、今回のタイミングでこれまでに使ってきたものを一気に減損させていただこうという経営判断を行ったものです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

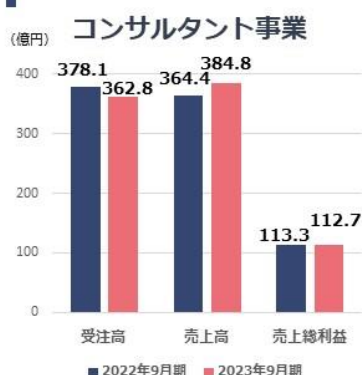


ということで、これに関しましてはここから先、減損の予定はありませんので、今後はこれをどんどん事業化していく加速度をつけていきたいと思っています。ですので、何とぞ株主の皆様、こういった私たちの未来への挑戦にご理解をいただきたいと思っております。

余談ですが、この発電所には全国の自治体から、これを視察して、自分たちの自治体に入れたいという声を結構いただいておりますし、そういった視察が引きも切らず来ておるところを申し添えます。

セグメント別の業績

全てのセグメントで売上高を伸ばしている



■売上高は堅調に増加

- 受注高は、国土交通省、民間案件の発注の時期ずれにより減少したものの、売上高については増加
- 売上総利益は、積極的な人材採用、給与水準の引き上げ等を行いつつもほぼ前期並みで推移

■受注高は増加、増収増益

- 受注高は、主に海外事業における大型案件受注により大きく増加
- 売上、売上総利益ともに増加

■商品拡充などにより、増収

- コンクリート用夜間反射塗料、バイオグリーンシールドなどのオリジナル商品を拡充



17

また数字に戻りますけれども、これはセグメント別の業績です。コンサルタント事業、サービスプロバイダ事業、先ほどの南部町はこれにあたります。またプロダクツ事業、大きく三つの事業。ただしこのうちの二つはそんなに数字は大きくないですけれども、それぞれが順調に推移しているということでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



連結貸借対照表の概要

(百万円)

<主な項目>	2022年9月期 実績	2023年9月期 実績	増減額	コメント
資産合計	33,463	36,241	2,778	流動資産 ・ 受取手形、完成業務未収入金及び契約資産の増加による影響(売上増加に起因するもの)
流動資産	23,369	24,186	817	固定資産 ・ 無形固定資産、投資その他の資産の増加の影響
固定資産	10,093	12,055	1,961	
負債合計	13,623	15,543	1,919	流動負債 ・ ほぼ前期並みで推移
流動負債	9,659	9,530	△128	固定負債 ・ 長期借入金の増加による影響
固定負債	3,963	6,012	2,048	
純資産合計	19,839	20,698	858	・ 当期純利益の計上により、利益剰余金が増加
株主資本	19,609	20,473	864	



18

これは連結のBS（貸借対照表）の、ざっとした状況でございます。前々期との比較、増減を示しています。資産合計で362.4億円となりました。

その中で特に増減のところで+19億円、20億円弱増えております。これは前期、特にピーシーレールウェイ、ニックスをグループ化させていただきました。それに伴って資産、のれんも含めてプラスであるということでございます。資産が増えたということです。

また、上の流動資産の+8億円、これは売上の増加に伴って、それぞれ手形ですとか未成業務支出金、その辺りが増えてきたということです。

それから負債合計、ここは155.4億円で、約19億円増えました。この大きなものはここに書いています、固定負債20億円が増えました。これは長期借入金の増加、上のM&A含めて行っていくために長期の用立てを行わせていただいたこととなります。

その結果、純資産の合計は206億9,800万円でございます。+8.5億円増えました。これは前期の利益剰余金が増加したことになります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



連結キャッシュ・フロー表の概要

(百万円)

<主な項目>	2022年9月期 実績	2023年9月期 実績	コメント
営業キャッシュ・フロー	△1,226	1,428	
税金等調整前当期純利益	3,667	2,481	
売上債権の増減額 (△は増加)	△5,841	△1,377	売上債権の増加、未成業務支出金の増加、未成業務受入金の減少などによる影響
貯蔵品の増減額 (△は増加)	△936	502	
未成業務支出金の増減額 (△は増加)	5,178	△255	
未成業務受入金の増減額 (△は減少)	△1,999	△740	
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△463	446	
投資キャッシュ・フロー	△950	△2,985	
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△1,606	連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出、有形固定資産の取得による支出等による影響
有形固定資産の取得による支出	△558	△815	
貸付けによる支出/収入	△241	△330	
財務キャッシュ・フロー	△767	1,150	
長期借入金による収入/支出	397	1,903	長期借入金の増加による影響
自己株式の取得による支出、処分	△427	△34	
期末現金および現金同等物残高	7,413	7,031	

 A・S・Iグループ株式会社

19

キャッシュ・フローについてもちょっと触れますと、まず営業キャッシュ・フローで、ここでは14.28億円になりました。これは前期の税前の純利益が24.8億円ありました。それに対してここに書いております、売上債権の増加、未成業務支出金の増加、それから未成業務受入金の減少が、売上が増えたことによってプラスに動いたこととなります。そういったことを含めて、トータルで14億円の営業キャッシュ・フローであったこととなります。

その下が投資キャッシュ・フロー。先ほどのとおり、前期にピーシーレールウェイニックスに、投資を活発に行わせていただいたことで、その結果として、-16億円は子会社株式の取得なんかがあります。あとは-8億円、これも事業展開に向けているんな不動産なんかの取得も行ったことの影響によるものです。

あとは財務キャッシュ・フロー、これは長期借入、これは先ほどのとおり、M&A含めた資金が乗ってきているということでございます。ということで、ここでは11.5億円になります。

それらを経て、現金および同等物が70.3億円となっております。

これは連結の業績推移ということで、ここでまとめて、前回の中期計画と今回始まった中期計画を含めて示しております。

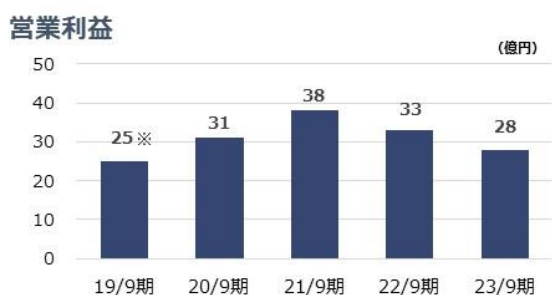
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



連結業績推移 ～受注高・売上高・利益～

売上高は増加傾向を維持



※保証金引き当て金4億円の影響を除く

人・夢・技術グループ株式会社

【ご参考】 2021年9月期以前の業績は、株式会社長六として公表した数値
2022年9月期期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用 20

これはざっと数字で見てご覧のとおり、受注高や売上高は順調にプラスで推移しております。営業利益がここでいったん下がっているのは、これは今回、何度もいろんなところで申し上げております現中期で、将来に向けての投資ということで、もともと売上也増えていく中で原価率をマイナスとしておりますので、全体的な営業利益はプラスに推移しておるんですけども、将来に向けた投資に支出しておりますので、仕上がり的には下がっていますよということになります。

また、当期純利益も先ほどご説明しました7.3億円の減損の影響もあり、12億円となっています。ただしここは、もともとの着地想定とほぼ変わらないこととなります。

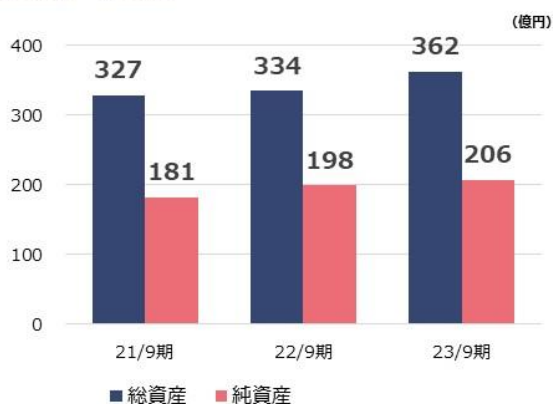
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

連結財務状況推移 ～自己資本比率～

堅調な売上の増加、利益剰余金の計上により、純資産が順調に増加

総資産・純資産



自己資本比率



■総資産、純資産の増加について 利益剰余金の計上により、順調に増加

■自己資本比率について 総資産、純資産とともに増加



【ご参考】 2021年9月期実績は、株式会社長犬として公表した数値
2022年9月期期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用 21

それらを含めて、これは自己資本比率などを示しております。左側は総資産と純資産、右側が自己資本の比率ということで、50%を超えて、上場企業としては健全なところで推移していると考えております。

今後は自己資本含めて、もっとますます資本の効率化を考えて進めてまいりたいと思っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



株主還元方針

自己株式の取得について（2023年5月15日取締役会決議）

**20万株(発行済株式総数に対する割合2.2%)、
又は3億円のいずれかを上限として、自己株式を取得**

取得期間：2023年5月16日～2023年9月13日

- 183,100株、299百万円の自己株式を取得済み



配当政策の変更について（2023年6月26日取締役会決議）

（変更前）1株当たり配当額40円と、配当性向25%に基づく配当額の高い方を目安として、2019年8月22日に公表した「長期経営ビジョン 2030」の最終年となる2030年までの間、より安定的な配当を行うことを基本方針といたします。

（変更後）1株当たり配当額60円と、配当性向35%に基づく配当額の高い方を目安として、2019年8月22日に株式会社長大が公表し、その後、単独株式移転による持株会社体制への移行に伴って当社が踏襲した「長期経営ビジョン2030」の最終年となる2031年9月期までの間、より安定的な配当を行うことを基本方針といたします。



22

ここでもう一つ、株主還元方針ということで報告させていただきますと、一番上、前期に自己株を取得させていただきました。20万株、もしくは3億円ということ。これは9月までに予定どおり行わせていただき、完遂しています。

それから配当政策の変更ということで、将来に向けての展開や、足元の事業、M&A含めて売上が上がっていく中で、株主の皆さんへ最大限還元させていただこうということで、配当政策も前期の途中で変更させていただきました。

1株当たり配当額60円、もしくは35%の高いほうを31年まで継続します。それまでは40円、25%でしたが、そこを昨今の水準も含めて、変えさせていただいたということでございます。

前期はこの表の一番右のとおり、70円と決めさせていただきました。これは配当性向52%に相当します。先ほど35%と申し上げましたが、仮に減損がなかったということで考えて、適切な価格であろうと。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

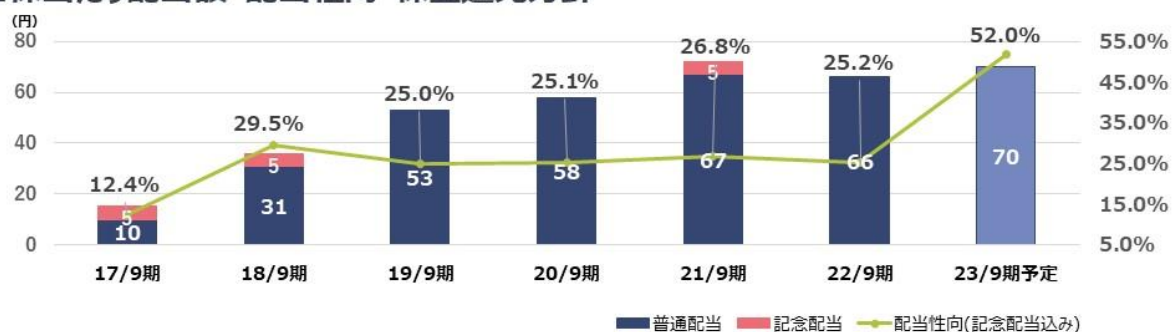


株主還元(配当推移)

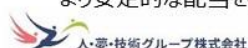
2023年9月期は、継続的かつ安定的に行うとの趣旨を鑑み、前期より4円増配となる普通配当70円の予定

	17年9月期 実績	18年9月期 実績	19年9月期 実績	20年9月期 実績	21年9月期 実績	22年9月期 実績	23年9月期 予定
1株当たり配当額 (うち特別配・記念配)	15 (5)	36 (5)	53	58	72 (5)	66	70
配当性向 (特別配・記念配除く)	12.4% (8.3%)	29.5% (25.4%)	25.0% (25.0%)	25.1% (25.1%)	26.8% (25.0%)	25.2% (25.2%)	52.0% (52.0%)

1株当たり配当額・配当性向・株主還元方針



■2023年9月期より、1株当たり配当額60円と配当性向35%に基づく配当額の高い方を目安として、より安定的な配当を行う方針（長期経営ビジョンの最終年となる2031年9月期までの間、より安定的に配当を実施する方針）



23

ここ昨今、配当額は72円、66円辺りを推移しておりますので、できるだけ株主の皆様には還元していこうという判断でございます。今年は52%、70円ということでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

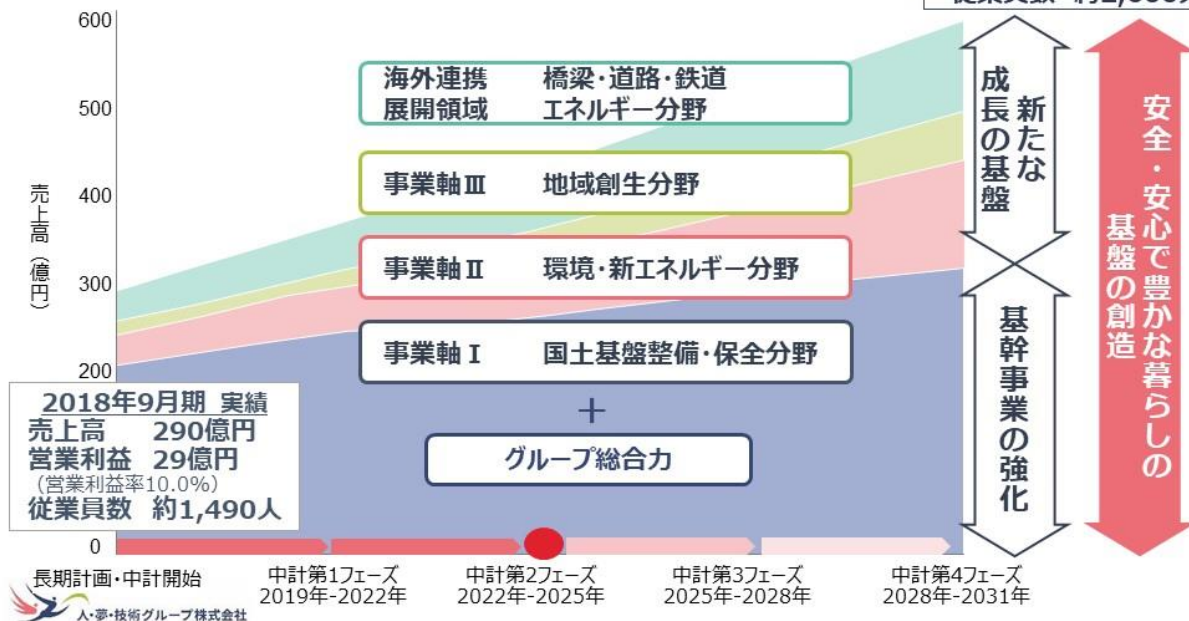


「長期ビジョン2030」と人・夢・技術グループ拡大の基本方針

人・夢・技術グループ拡大の基本方針

「**基幹事業の強化**」と「**新たな成長の基盤づくり**」

2030年9月期 目標値
 売上高 600億円
 営業利益 50億円
 (営業利益率8.3%)
 従業員数 約2,600人



25

続きまして、次に中期計画の進捗ということで、これは中計をなぞることになりますが、これまでに公表してきました、私たちグループ全体の展開図でございます。

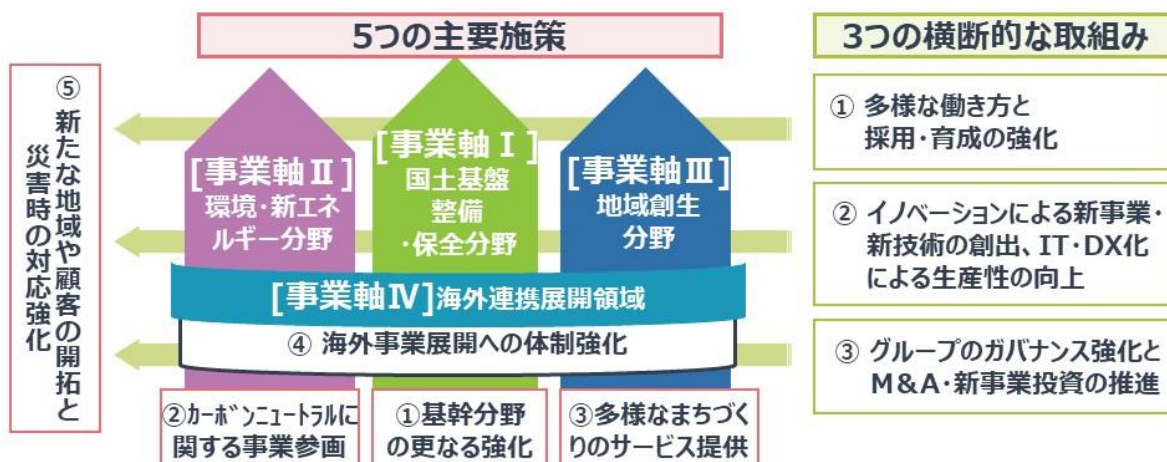
事業軸 1、2、3、それから海外、エネルギー。海外でも同じように事業軸 1、2、3 をやっけていこうという意味です。それプラス、それぞれについて最終的な数値目標も持っております。先ほど永治が申し上げたとおり、最終的に 2031 年で 600 億円を目指そうと。可能な限り、前倒しでできたらと思っております。大きくはそういったものが順調に進んでいることとなります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

【基本方針】

国土基盤整備・保全分野のさらなる強化と環境・新エネルギー分野
及び地域創生分野の新たな事業分野としての確立。
事業を支える多様な人材が働きがいを持てる環境づくりを推進。



これは、さらにもう少し細かく分解したものでございます。冒頭、永治が説明しましたので割愛しますが、事業軸 1、2、3、海外、新たな地方創生、国土強靱化といったところを軸に、しっかり力を入れながら推進しています。

それを支える三つの横断策も、私たちは内部で取り組んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

中期経営計画「持続成長プラン2025」の経営指標と成長投資

2023年9月期～2025年9月期

経営指標（2025年の目標値）



成長投資（2025年までの投資額）



27

この中計の最終年、来期の社員数、売上高を含めて示しております。やはり大きなところは成長投資、この中計は3年間で合計110億円といった数字を予定しておりますし、第1期目が終わり、順調にその投資は進んでいるということでございます。

ですので投資しながら、早くリターン、回収していくことが求められますし、皆様気にされるのはそこだと思います。この中計、もしくは次の中計からそういったものが発現できるよう、進めていきたいと思っております。

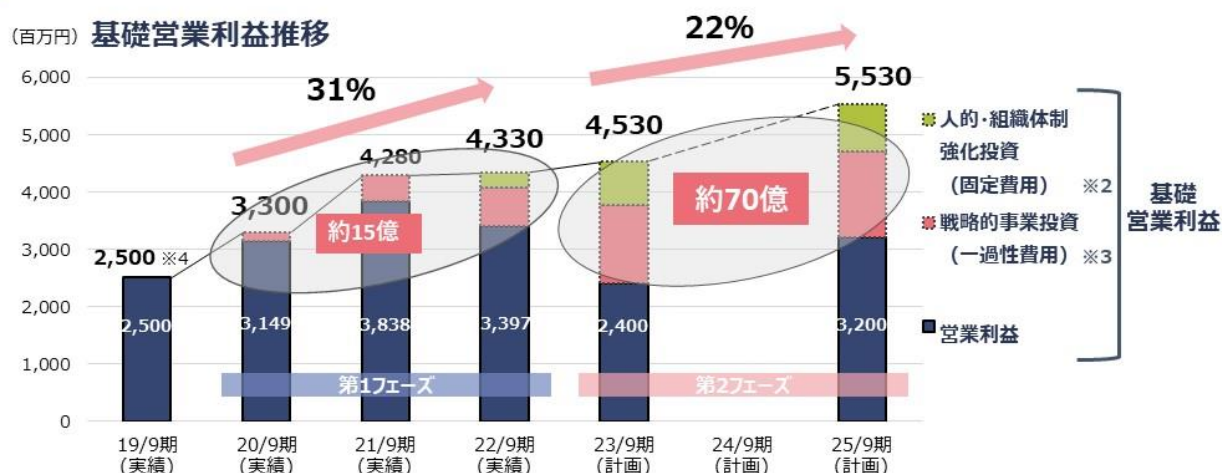
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

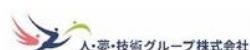


中期経営計画「持続成長プラン2025」の成長投資

長期ビジョン2030の実現に向けて、先行投資を約5倍へ



- 長期経営ビジョン2030第1フェーズは、3ヶ年における売上高成長率CAGRが+9%、基礎営業利益ベースにおいても順調に増加
- 第2フェーズにおいては、基礎営業利益ベースでは増益基調を継続するものの、将来のさらなる事業拡大に向けた体制強化投資、戦略的事業投資の推進により、営業利益は一時的に減益となる



※1 2021年9月期以前の実績は、株式会社長大として公表した数値
 ※2 体制強化投資：持株会社体制強化、給与賞上げ、グループ全体のITインフラ強化等
 ※3 戦略的事業投資：研究開発費を含めた新事業投資等
 ※4 保証金引き当て金4億円の影響を除く

28

これもこれまでオープンしてきたものですが、この3年間で、先ほどのM&A費用を除いた70億円を想定しております。ですので、基礎営業利益といういい方をしていますが、この一番上は売上とともにもちろん上がっています。それを将来に向けて、受注、公共事業だけではいけないという危機感の下に、投資を先行してやろうとしております。

M&Aを含めて、空飛ぶクルマ、量子コンピューターなど、今、社会そのものが大きな課題として取り組んでいる事業に、私たちが非常に親和性がありますので、そこにどんどん展開していこうといったところです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



2024年9月期 連結業績予想

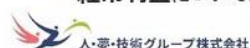
2024年9月期は、対前期比で増収増益の見込

(百万円)

	2023年9月期 通期実績	2024年9月期 通期予想	実績比 増減
受注高	38,920	43,500	4,579
売上高	39,812	43,000	3,187
営業利益	2,860	2,900	39
経常利益	3,200	2,910	△290
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,203	1,700	496

■売上高、営業利益について

- **売上高**については、基幹事業の堅調な受注、2023年9月期実施のM&Aによる売上増を背景に増収の見込
- **営業利益**については、引き続き成長の基盤となる組織体制の強化に重点を置き、技術者の増員、IT技術の活用による業務効率化、給与水準の引き上げの実施、また、新事業領域拡大に向けての研究開発の推進などによる先行投資の実施を行いつつも、増益の見込
- **経常利益**については、一過性利益323百万円(受取補償金、受取保険金、為替差益など)の剥落により、減少



30

最後は、今期の業績予想でございます。

これは24年9月期、受注で435億円、売上で430億円、営業利益で29億円、経常利益で29.1億円。最終的な当期純利益で17億円、大きくは受注と売上を伸ばしていこう、その結果、営業利益も前期よりは若干ですがプラスに持っていこうと。

それから経常利益、これも上と連動して、前期より若干下がるのは、前期はもともと想定していなかったものが乗っかってきましたが、今期は一時的なものは想定しておりませんので、こういった数字に落ち着くのかなと想定をしております。

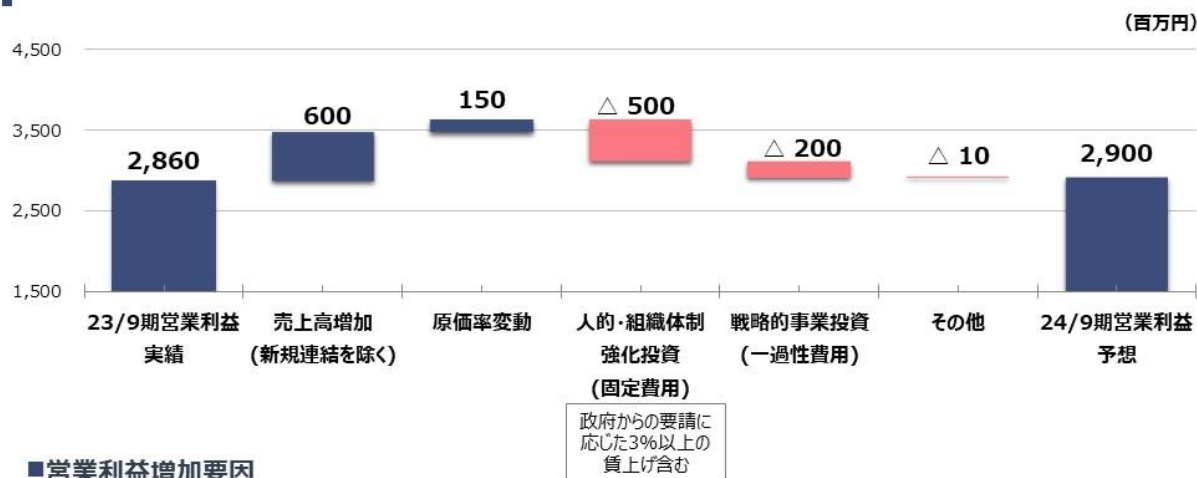
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



営業利益増減要因の分析

戦略的投資を推進しながらも、基幹事業の受注増による売上高増により、増益を見込む



■営業利益増加要因

- ・基幹事業における売上高の増加、ITインフラ整備による業務効率化により増加

■営業利益減少要因

- ・新事業領域拡大に向けた先行投資、研究開発投資の推進、「成長と分配」という政府による要請を鑑みた給与水準の引き上げなどにより、減少



31

これは営業利益の増減図です。前期 28.6 億円からスタートして、売上、効率化で伸ばす分、あとは逆に人的な投資、成長投資に使っていくものが 5 億円。これは前期にプラスしたものととして 5 億円、2 億円と考えています。これはスタートの前中期の最終年から比べますと当然、この数字は大きくなるんですけども、こういった前期比較でいくとこの数字になるということで考えております。

最終的には 29 億円ということで、前期着地よりもプラスに持っていく。売上、受注を伸ばしながら、ここも当然増やしていきたいと考えてございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



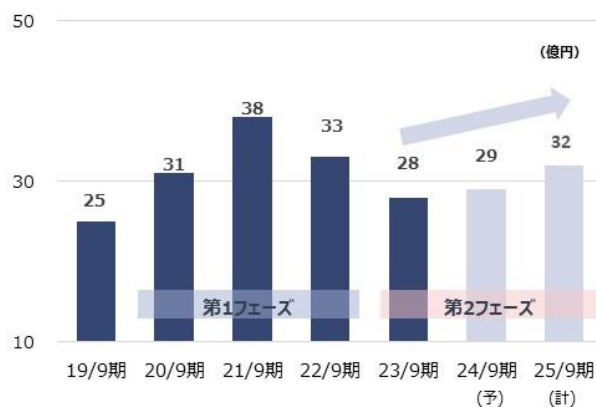
連結業績推移 ～売上高・営業利益～

売上高は順調に増加傾向を維持、営業利益は先行投資をしながらも再度拡大

売上高



営業利益



【ご参考】 2021年9月期以前の実績は、株式会社長六として公表した数値
2022年9月期期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用



32

あとはこの業績、売上高もこの中計において当然、伸ばしていきたい。営業利益もいったんここで、この部分（営業利益 22 年 9 月期、23 年 9 月期）を下げながらも、最終年には 32 億円まで持っていきたいと考えてございます。

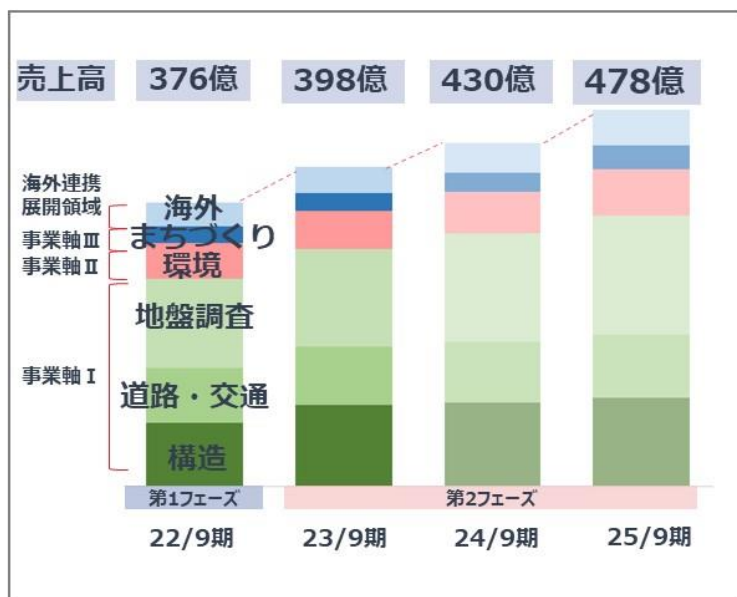
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



2023年の5つの主要施策の取り組み

人・夢・技術グループの基幹を担う国土基盤整備・保全分野の強化と
環境・新エネルギー分野及び地域創生分野の新たな事業分野としての確立にむけて



【構造】

- ・ 特殊橋設計のほか、持続可能なメンテナンスの受注
- ・ BIM/CIMを使用した設計業務の拡大

【道路・交通】

- ・ 長寿命化や改良設計などの計画を推進

【地盤調査】

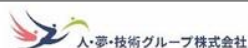
- ・ 地盤情報サービスの高度化に関する新領域へ展開

【環境・海外】

- ・ タイ国のごみ発電事業の受注など

【まちづくり】

- ・ PPP/PFI分野の新規顧客を順調に拡大



33

また、弊社はいろいろな事業を行っております。それぞれ数字をしっかり持って、マネジメントし、引き続き進めていくこととなります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



31

株主還元(配当推移)

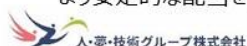
2024年9月期は、継続的かつ安定的に行うとの趣旨を鑑み、前期と同水準となる普通配当70円の予想。

	17年9月期	18年9月期	19年9月期	20年9月期	21年9月期	22年9月期	23年9月期	24年9月期
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	予定	予想
1株当たり配当額	15	36	53	58	72	66	70	70
(うち特別配・記念配)	(5)	(5)			(5)			
配当性向	12.4%	29.5%	25.0%	25.1%	26.8%	25.2%	52.0%	36.8%
(特別配・記念配除く)	(8.3%)	(25.4%)	(25.0%)	(25.1%)	(25.0%)	(25.2%)	(52.0%)	(36.8%)

1株当たり配当額・配当性向・株主還元方針



■2023年9月期より、1株当たり配当額60円と配当性向35%に基づく配当額の高い方を目安として、より安定的な配当を行う方針（長期経営ビジョンの最終年となる2031年9月期までの間、より安定的に配当を実施する方針）



34

配当、株主の皆様への還元は、結論からいいますと今期も70円、同じものを想定しております。想定される配当性向でいうと36.8%となるかと思っております。

駆け足ですが、私のほうからは以上でございます。続きまして、事業のトピックについて井戸のほうから説明させていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



2023年9月期下半期事業トピックス

分野		トピックス
事業軸Ⅰ	基幹事業	<ul style="list-style-type: none"> 首都高「大師橋」の更新工事で画期的な方法を提案 [長大] 地すべり地の道路設計にBIM/CIMモデルを導入 [基礎地盤コンサルタンツ]
	災害復旧／防災・減災	<ul style="list-style-type: none"> 道路交通情報を利用した防災への取り組み [順風路]
事業軸Ⅱ	環境・新エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜県で地熱資源開発の促進活動を支援 [基礎地盤コンサルタンツ]
事業軸Ⅲ	まちづくり・地域創生	<ul style="list-style-type: none"> 寒川学校給食センターを設計・監理 [長大] 地域コンサルとして、地元「宇都宮ライトレール」の開業に貢献 [ピ°-シーレールウェイクンメント]
海外連携展開領域		<ul style="list-style-type: none"> インドネシア国ジャカルタで既存鉄道の輸送力増強事業を行う [長大] 台湾の太陽光発電事業で運転を開始 [長大]
横断的な取り組み	IT化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 3Dスキャナーで検査品質を上げ、現地作業を効率化 [長大テック] ICT先端技術の研鑽活動で事業化を目指す [エフェクト]



36

井戸：ここで少しお時間いただきまして、今年の4月から9月までの半期での事業トピックスをご紹介させていただきます。

ここにありますが、文字だけを見るとITという言葉はあまり出てきていないのですが、実はこの中にITにかかわるものがこここのところ非常に増えてきております。はじめに永治から説明がありましたが、やはり今後の私たちの事業の中に、そういうIT技術は外せないところにきておるかと思えます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



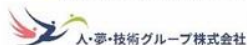
33

[事業軸 I] 基幹事業

首都高「高速大師橋」の更新工事で画期的な方法を提案 [長大]



- 東京都と神奈川県を結ぶ首都高速道路の「高速大師橋」は老朽化による更新工事が必要とされていたが、交通量の多い首都高での工事は、交通規制期間の短縮が求められた。
- 長大は更新工事に必要な構造検討と施工法検討を実施。別の場所で造った新設橋を下流側に運び、既設橋を上流側にスライドさせ、新たに新設橋と入れ替えることで、交通規制期間が最短となる方法を立案。
- 2週間の通行止めで工事は終わり、6月に架け替えが完了。



37

その中でまず出てくるのが橋ですけども、首都高大師橋の架け替えです。通常であれば非常に時間を要するところを、わずか2週間でこの架け替え工事を行ったことで、その設計に携わったわけですが、おそらくわが国で初めてのものじゃないかなと思います。

2週間というのが、素晴らしい設計技術であったと自負しております。

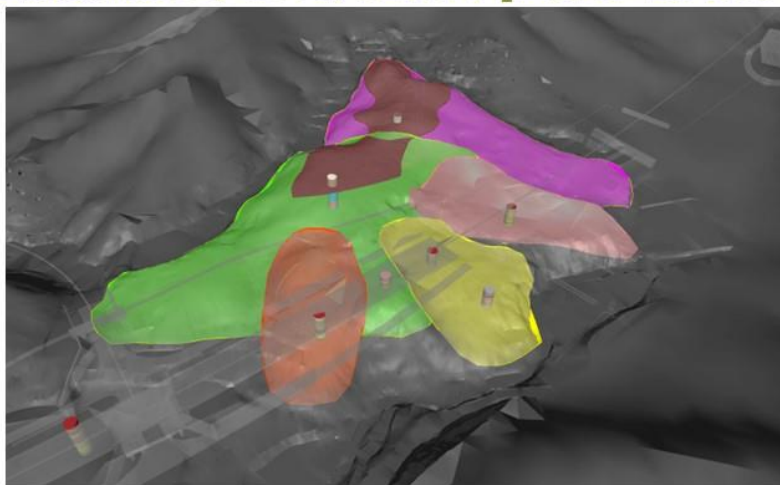
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



[事業軸 I] 基幹事業

地すべり地の道路設計にBIM/CIMモデルを導入 [基礎地盤コンサルタンツ]



- 基礎地盤コンサルタンツでは、建設区間に地すべり地が含まれる自動車専用道路において、複数に分かれた地すべりブロックや地すべり対策施設を正確に反映させたBIM/CIMモデルを作成。
- これにより、道路・地すべり地・対策施設の空間分布が三次元で視覚的に把握することが可能に。学識経験者や設計者・施工者など関係者間での共通理解が促進され、合理的な設計や工事コストの削減に寄与。



38

続きまして、これは基礎地盤の取り組んだ事業ですけれども、やはり最近、建築の分野では BIM、土木の分野では CIM ということで、3次元データを使った設計が推進されておりますが、同じようにこのような地滑りの可能性のある地域を、地盤を3次元で解析して、しかもそれをこのような視覚的に表現することで、工事関係者の方々に視覚的に訴えることで、非常に評価されたところでございます。

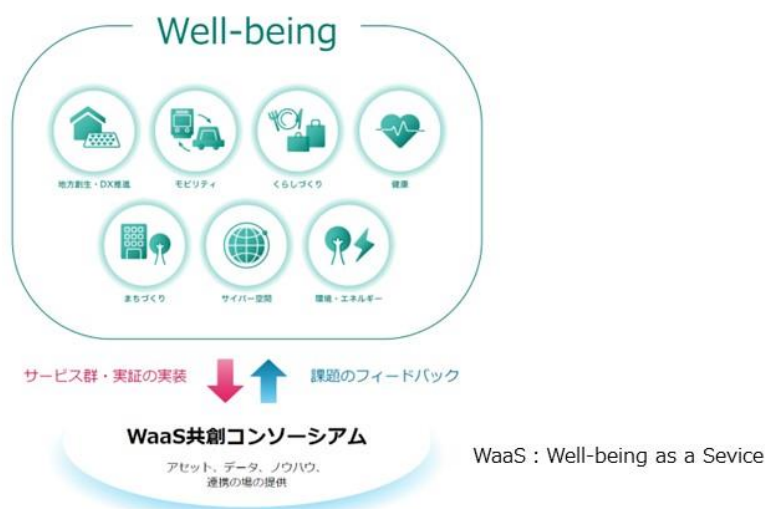
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com




[事業軸 I] 災害復旧／防災・減災

道路交通情報を利用した防災への取り組み [順風路]



- 順風路は、JR東日本が2023年4月に設立した「WaaS共創コンソーシアム」に参画。①移動の価値を高める、②空間の価値を高める、③地方での生活を豊かにする、を主目的にWell-beingな社会の実現に向けて社会課題の解決に取り組む。

- 順風路は、災害発生時における順風路の道路交通情報提供技術の有用性について検討。

 人・夢・技術グループ株式会社

39

続きまして、順風路が取り組んだものですが、順風路の事業はオンデマンド交通などがありますけれども、その中で主力の事業の一つである、道路交通情報提供。これを主力としている順風路におきまして、このように JR 東日本が設立した WaaS 共創コンソーシアムに参加させていただき、そこで順風路の力を出させていただけの機会をいただけたことは、非常に感謝すべきところかなと思っております。

サポート

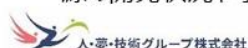
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

[事業軸Ⅱ] 環境・新エネルギー

岐阜県で地熱資源開発の促進活動を支援 [基礎地盤コンサルタンツ]



- 岐阜県では、2022年3月に「岐阜県エネルギービジョン」を策定し、地熱をはじめとする地域資源の最大限の活用を促進。
- 基礎地盤コンサルタンツでは、地熱資源開発の理解促進事業を受託し、住民へのアンケート調査、研修会、先進地視察などを行い、地元住民の意見や地域の課題を集約。また、発電事業者へのヒアリングを行い、資源の開発状況や事業者支店の課題を調査。その成果を反映したパンフレットとガイドブックの作成を行った。



40

続きまして基礎地盤の取り組み、エネルギー事業ですけれども、岐阜県において、エネルギービジョンが策定されておりまして、地域資源の最大限の活用を推進するものを打ち出しておられますけれども、その中で基礎地盤は地熱資源開発の理解促進を担い、地域住民の方々の意見、あるいは事業者様の意見を聞き、それを取りまとめたかたちでパンフレットとガイドブックを作成し、この事業を支援しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

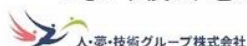


[事業軸Ⅲ] まちづくり・地域創生

寒川学校給食センターを設計・監理 [長大]



- 2023年8月、長大が設計・監理に携わった神奈川県寒川町の寒川学校給食センターが開所。安全・安心な「学校給食」を提供することに加え、広く町民の方々に「食育」を発信することができる機能を兼ね備えた施設となっている。
- 2階部分の通路は、施設全体を回遊することができ、食材の搬入から給食の搬送まですべての工程を見学できる。今後も、地域のニーズを取り入れたまちづくりに取り組み、地域創生に貢献する。



41

これは長大の建築部門が取り組んだものです。長大の建築部門では、給食センター学校、いろいろな取り組みをしておりますけれども、今回はこの寒川町の学校給食センターです。

最近の学校の給食センターも、単純に給食をつくる場所をつくれればいいですよというのではなくて、やはり最近、食育という言葉が非常に出てきております。したがって、この給食センターにおきましても2階部分に通路をつくりまして、実際に、食材の搬入から、給食をつかって、それを搬送するところまで地域の方々に見学していただけるような、そういう施設をつくっております。

このような地域のニーズを取り入れたかたちでのまちづくり、地域創生に大いに貢献していくものだと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

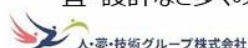


[事業軸Ⅲ] まちづくり・地域創生

地域コンサルとして、地元「宇都宮ライトレール」の開業に貢献 [ピーシーレールウェイコンサルタント]



- 2023年8月、栃木県宇都宮市に「宇都宮ライトレール」が開通。(LRT:Light Rail Transit,次世代型路面電車とも呼ばれる) ネットワーク型コンパクトシティの推進や公共交通機関の利用による温室効果ガス削減が期待される。
- 宇都宮市に本社を置くピーシーレールウェイコンサルタントでは、地元建設コンサルタントとしてLRTの開業を支援。2015年から、停留所へアクセスする道路設計、路線周辺の交差点や信号の改良、地下構造物の調査・設計など多くの業務を手掛けた。



42

続きまして、新たに加わったピーシーレールウェイコンサルタントの事例です。今年の夏に宇都宮で LRT が開業いたしましたけれども、それにダイレクトにかかわっておるわけではございませんが、やはり LRT を通すためには周辺の道路も併せて整備していかなければいけないということで、鉄道、道路、いろいろな事業に取り組んでいるコンサルタントですので、交差点の改良、アクセス道路の整備、そういうところでこの LRT 整備を支援した事例でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



[海外連携展開領域×事業軸 I] 基幹事業

インドネシア国ジャカルタで既存鉄道の輸送力増強事業を行う [長大]



- 慢性的な交通渋滞を抱えるジャカルタで長大を含む共同企業体が既設路線の鉄道輸送力増強プロジェクトを受注。
- 信号の改良と自動列車防護装置(ATP)を施し、列車の運行本数を増やして輸送能力をアップする事業を進める。道路から鉄道への交通手段のシフトが進むことで、車両の混雑緩和が期待される。



43

続きまして海外の事業です。一つ目にあるのはインドネシアの鉄道ですが、昨今インドネシアの新幹線などいろいろな話題がありますが、これは既存の鉄道の輸送力を増強する事業でございます。

長大を含む共同企業体で請けた事業ですが、信号の改良、ATP（自動列車防護装置）を施すことで、運行本数を増やせばまだまだ輸送力は増やせるということで増強を図ったところです。

インドネシア、特にジャカルタというところは非常に道路交通が渋滞でひどいところですが、なんとかこういう鉄道をうまく活用していただいて、今後、渋滞解消に向けて動ければと思っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



[海外連携展開領域×事業軸Ⅱ] 環境・新エネルギー

台湾の太陽光発電事業で運転を開始 [長大]



- 長大が2021年に台湾に設立した台湾顧問有限公司(100%子会社)を通してコンサルティング及び出資を行った「太陽光発電桃園案件」の発電設備が無事完工し、2023年6月より運転を開始。
- 国内外問わず、長大が参画する初の太陽光発電事業となる。



44

それとも一つ海外の話題ですけれども、長大フィリピンで小水力発電とかやっておりましたが、今回は台湾で、ここに台湾顧問有限公司と書いて、長大台湾という子会社を設立いたしました。現在、太陽光発電にも取り組んでおります。

2021年から取り組みを開始しましたが、やっと今年第1号の案件ができあがったということで、今回の紹介となります。これを第1号案件として今、また次の案件を整備すべく取り組んでおるところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

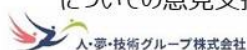


[横断的な取り組み] IT化の推進

3Dスキャナーで検査品質を上げ、現地作業を効率化 [長大テック]



- 長大テックは、道路や橋梁の維持管理業務に3Dスキャナーを活用し、検査の品質向上と現地作業の効率化に取り組む。
- 3Dスキャナーでデータを取得することにより、形状や損傷の測定漏れが無くなり、現地作業の時間短縮に。
- また、技術者教育の一環として、自治体職員やグループ会社のエフェクトとともに現地研修を実施。活用方法についての意見交換を行う。



45

こちらは IT ということですが、長大テックでは 3D スキャナーをものすごく活用しておりまして、今回はこの道路、橋梁の維持管理業務に 3D スキャナーを活用して、一番大きいのはやはり現場での効率化、省力化に結びついているのではないかと考えております。

自治体の方にも非常に興味を持っていただき、この右側の写真は自治体の職員の方々と一緒になって、現地研修を実施しておるところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



[横断的な取り組み] IT化の推進

ICT先端技術の研鑽活動で事業化を目指す [エフェクト]



- エフェクトは、ICT先端技術の目覚ましい発展スピードに対応するため、技術研鑽を進めており、その一つとして、「人物の動的解析技術」に取り組む。
- センサーを身につけることなく、人の動きの特性を解析し、可視化。この技術を、工場作業の効率化や病院内の異常検知、患者のリハビリ等に応用する取り組みを進める。



46

最後になりますけれども、エフェクトが取り組んでおる事業でございます。これまで人の動きということだと、人の体にセンサーを付けなければ、その動きを解析することができないということだったんですけれども、このエフェクトが今開発しておるものは、センサーなしで、この右のような人の動きを解析するものです。これまではセンサーを付けた方の動きしか分からなかったものが、センサーを付けていない方、例えば工場で作業されている方、病院内で動いておられる方、あるいは病院の患者でリハビリをされている方だとか、そういう方々の動きを解析することで、いろいろな分野に応用していけるのではないかなと考えております。

エフェクトにおきましては、これ以外にもこういった IT を活用した取り組みをどんどん進めておるところでございます。

以上です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



質疑応答

司会 [M] : ありがとうございます。それでは、これより質疑応答に移らせていただきます。会場にお越しの方で質問のある方は、挙手をお願いいたします。Zoom でご参加の方は、コントロールパネル Q&A からご入力をお願いいたします。

なお、本説明会は質疑応答部分も含め全文を書き起こして公開する予定です。したがって質問の際に会社名、氏名を名乗られますとそのまま公開されますので、匿名を希望される場合はこの点ご留意をお願いいたします。Zoom でご参加の方につきましては、お名前は読み上げません。

それでは、まず会場の方より質問をお受けしたいと思います。ご質問のある方は挙手をお願いいたします。

フダ [Q] : 建設通信新聞のフダと申します。今日のご説明、ありがとうございます。

成長投資で M&A を除いた部分、70 億円ということですが、3 年間のうちの初年度の消化率といいますが、どのぐらい投資されていらっしゃるのか。塩釜常務からは順調に投資が進んでいるというお話がありましたが、どのような使われ方をしたのかということをお聞かせいただけますでしょうか。、あと 2 年目にどのような投資計画でいらっしゃるのか、どこに重点的に取り組むお考えなのか。

塩釜 [A] : 質問ありがとうございます。最初の成長投資 70 億円がどれだけということですが、具体的な数字はここでは控えさせていただきますが、私は先ほど順調にと申し上げましたが確かに前期の期首の想定よりも若干少ない数字で収まっております。例えば人的組織体制への投資ですとか、戦略的事業投資は、前期当初に掲げた数字よりも着地は少なくなっています。

その原因の 1 つに、実は前期に立てた売上高通期予想に若干達していなかったこともあって、少し投資を抑えたことがあります。そういう中でなぜ順調かといえますと 3 年間で考えたときに、例えば IT 投資なんかは実は結構大きな額の投資をしていくのですけれども、そこに対して若干の期ずれがありました。

期ずれといえますのは、計画は立てて内容まで精査していましたが、社内グループ全体で実際に使っていくタイミングが、前期ではなくて今期になりそうだとか、要するに実行していくタイミングがいろんな諸般の事情によって、半年もしくは 1 年ずれたとかということです。

それと先ほど言いましたとおり、着地想定の上上がやや計画に達していなかったため、投資を少し控えたということです。ただし、私たちは単年度というよりも 3 年間で見ておりますので、想定しているメニューとしては、当初もしくは今進行中のメニュー含めて想定どおりです。そういう意味で今期、もしくは来期に、前期足らず米で使わなかったものは実行していこうという意味で、順調という言い方をさせていただきました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

フダ [Q] : その3年の2年目ということで、今期特に重点化するような、あるいは力を入れていくような分野、あるいは事業がありましたらお聞かせ願います。

塩釜 [A] : やはり対外的に事業を横展開していくことの、新たな事業への投資とか、M&Aを含めた投資があります。

もう一つは、これは冒頭、永治のほうから申し上げましたが、やはりITを使ってどんどん効率化を進めていく、企業の足腰を強くしていく意味での投資、これの2本立てだと思っております。そこは先ほど言ったとおりの充実しているメニューを実行していくことになろうかと思えます。

司会 [M] : ありがとうございます。それでは会場のほうから、ほかにご質問がある方は挙手をお願いいたします。

クマガイ [Q] : ありがとうございます。建設工業新聞のクマガイです。1点目は先ほどM&Aを含めた投資をしていくというお話がございましたが、鉄道ですとかITとか、そういうM&Aをこれまで進めてきた中で、今年は、今こんな分野でM&Aをしていきたい、こんな企業に仲間になってほしいみたいなイメージがあれば、教えていただきたいのと、もう一つ、24年9月期の予想について、売上高について増収の見込み、M&Aも含めて増収の見込みということですが、市場環境の見通しをどのように見ていらっしゃるのか、国内外でも何でも構いませんが、教えていただければと思います。お願いします。

永治 [A] : この会社といえますか、特に分野といえば先ほど申しましたように、まちづくりというキーワードを一つ取っても、そこに加わるのは建築もあれば土木もあるし、病院、学校、それから給食みたいなところもあり、いろんな分野で触手を伸ばしてはいますので、今ただちにここをということではありません。

それから市場環境です。基本的にやっぱり維持管理の分野、特に土木の世界、あるいは建築でも、長寿命化というキーワードが最近よく使われます。そういった分野では新たにつくるというよりも、先ほどの大師橋も実は、前後の区間は当然今までの道路を使い、もう壊れてどうしようもないところだけを橋ごと取り替えた橋であり、非常にそちらの需要は大きいです。

それからこれは冒頭申しましたように、国、あるいは自治体の予算はこの社会インフラの成長のために投資する基調にはありません。要は平行移動、もしくは災害が増えた結果として投資することはあり得ますという環境でいうと、PPP/PFIという世界、これは間違いなくやっていかないとはいけません。そちらにシフトしていくと見えていますので、そちらの売上はかなり伸びていくと思えます。

それから先ほど環境経営というところで申し上げましたけれども、やっぱり再生可能エネルギーの問題。これは、今、先ほど申し上げました災害に即つなげてしまう社会になってきていますので、再エネ関係の事業はわれわれは着目しているし、力を入れていきたいと考えています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



司会 [M] : ありがとうございます。それでは、WEB のほうからも質問をいただいておりますので、読み上げてまいります。

質問者 [Q] : まず一つ目ですが、売上が計画を下回った主要因は期ずれとのことですが、これは長大の売上期ずれしたのでしょうか。

塩釜 [A] : 質問ありがとうございます。ご指摘のとおり、これは長大と基礎地盤の両社でございます。

弊社グループの売上げのざっと 90%以上はこの 2 社で担っております。これまでの過去、通常であれば長大と基礎地盤のどちらかの売上げが計画を下回ることがあってもどちらかが計画を上回り、助け合うような連携がありましたが、今期に限りましては両社とも期ずれといえますか、少し受注の踊り場みたいなものがあったということでございます。

質問者 [Q] : ありがとうございます。次の質問へ移らせていただきます。営業利益の増減要因について、こちらは資料の 15 ページにあります。計画では人的投資で -5 億円、戦略投資で -7 億円、計 -12 億円だったと思いますが、着地は人的投資 -3.5 億円、戦略投資 -2.5 億円、計 -6 億円と順調に進んでいるように思えます。詳細を教えてください。

塩釜 [A] : ご質問ありがとうございます。これは私、先ほどのフダ様の質問に関連したお答えさせていただきましたが、おそらくその質問の数字、挙げられたのは前期の計画の数字と着地の数字を比較されてのものかと思います。

前期の計画の段階では、売上が 415 億円で着地する通期予想を立てておりましたが、実際は 398 億円となりました。その辺り、通期予想に対して売上がその分減っているわけですから、売上を減らしながらも投資の部分をブラスすることはなかなかできない状況にあります。

そのバランスを見ながらと言いつつも、先ほどのとおり今後への成長投資は必要です。金額は減ったことにはなりますが、先ほどのとおり投資メニューを含めて内容は計画しておりますので、それは今期、もしくは来期に向けて、着実に実行していきたい考えでございます。

司会 [M] : ありがとうございます。時間が押していますが、まだいくつか質問をいただいておりますので、もう一つ質問をお受けさせていただきたいと思えます。

質問者 [Q] : 今日はありがとうございます。二つ、お伺いさせていただきます。

PBR1 倍割れ解消は、どのような時間軸で目指していらっしゃいますか。次の中計までには解消は可能でしょうか。M&A などの新規投資は、PBR1 倍割れ解消にどう寄与するのでしょうか。よろしく願いいたします。

塩釜 [A] : PBR1 割れは私たち、グループを挙げて対応していきたいと思っております。その中で、時間軸でいつ頃ということに関しましては、この場ではなかなかいつとはお答えできないことだと思えます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ただし、PBR1 倍割れ解消を目指して当然やっておりますし、現中計でこれまでと違う成長投資をしていこう、それとは別に、そもそも売上をしっかりと上げて利益を出していく計画には全くぶれはございません。できるだけ早急に PBR1 割れを解消してまいりたい。そのためにも資本効率を上げて、これらを重点的に取り組んでいきたいと考えております。

質問者 [Q]：ありがとうございます。二つ目は M&A などの新規投資です。PBR1 倍割れの解消にどう寄与するのでしょうか。

塩釜 [A]：M&A の新規投資、これは株主の皆様は興味があることだと思います。

どう寄与するのかということでは、前期、例えばピーシーレールウェイ、それからニックスという、私たちの事業展開に非常に必要なお会社様をグループに招き入れました。これは当然、私たちの戦略がありまして、ピーシーレールウェイであれば鉄道分野を広げていくこと。東南アジアを含めて海外では非常に盛んな分野でございますし、ニックスであれば IT の分野として、まだまだ公表はできませんけれども、ニックス含めて新しい展開を考えております。

こういったことが間違いなく事業のすそ野を広げて、売上に貢献していく、また利益を出していくことは間違いのないものと考えております。ただ、まだ先ほどの話に戻りますが、「その時期(はいつだ)」というなかなか明言はできません。私たちはそういったものに一生懸命対応しているということで、M&A などの新規投資は結果的に利益を押し上げて、ROE を上げて、PBR1 倍割れを解消するものと考えております。

司会 [M]：ありがとうございました。まだほかにも質問をいただいているのですが、本日時間を超過しておりますので、残りの質問のほうは別途 WEB のほうでご回答させていただきたいと思います。本日の質問を含めました書き起こし、全て明日以降にホームページのほうに掲載予定となっておりますので、そちらのほうをご確認いただければと思っております。

それでは時間が超過しましたが、お時間を過ぎておりますので、以上をもちまして人・夢・技術グループ株式会社、2023 年 9 月期決算説明会を終了いたします。

なお冒頭でも申し上げましたが、アンケートへのご協力をお願いいたします。会場にお越しの方は、会場出口にてアンケートを回収させていただきます。Zoom でご参加の方はこの後、画面が切り替わり、アンケート画面が表示されます。

また追加のご質問につきましては、本日のご説明資料の最後のページに記載されております電話番号、もしくはメールアドレスにご連絡いただきますようお願い申し上げます。

それでは、これにて閉会いたします。本日はお忙しいところお越しいただき、またご視聴いただき、誠にありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



当日お答えできなかった質問に対する回答

質問 [Q] 今回減損したバイオマスガス発電事業について、これまでの総投資額はいくらでしょうか？今回全額を減損したのでしょうか？

人・夢・技術グループ [A] 総投資額の具体的な金額は回答を差し控えさせていただきますが、今回の減損処理により、固定資産の簿価全額を特別損失として計上しております。

質問 [Q] 今期予想について、経常利益に対する純利益の比率が58%と低いですが、これは税率の問題でしょうか？それとも何か営業外損失を見込んでいるのでしょうか？

人・夢・技術グループ [A] 今期予想の経常利益に対する純利益の比率は、税率によるものです。また、現時点において、営業外損失は見込んでおりません。

質問 [Q] ロシアによるウクライナ侵攻、中国経済の先行き不透明感、ハマスによるイスラエル攻撃など世界情勢が大きく変化していますが、24年9月期の業績見込みにこれら“外的要因”に与える影響はある（見込んでいる）のでしょうか？

人・夢・技術グループ [A] 現段階において、業績見込みに“外的要因”から受ける影響はないと考えておりますが、今後も引き続き、海外事業における“外的要因”からの影響には注視してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com

